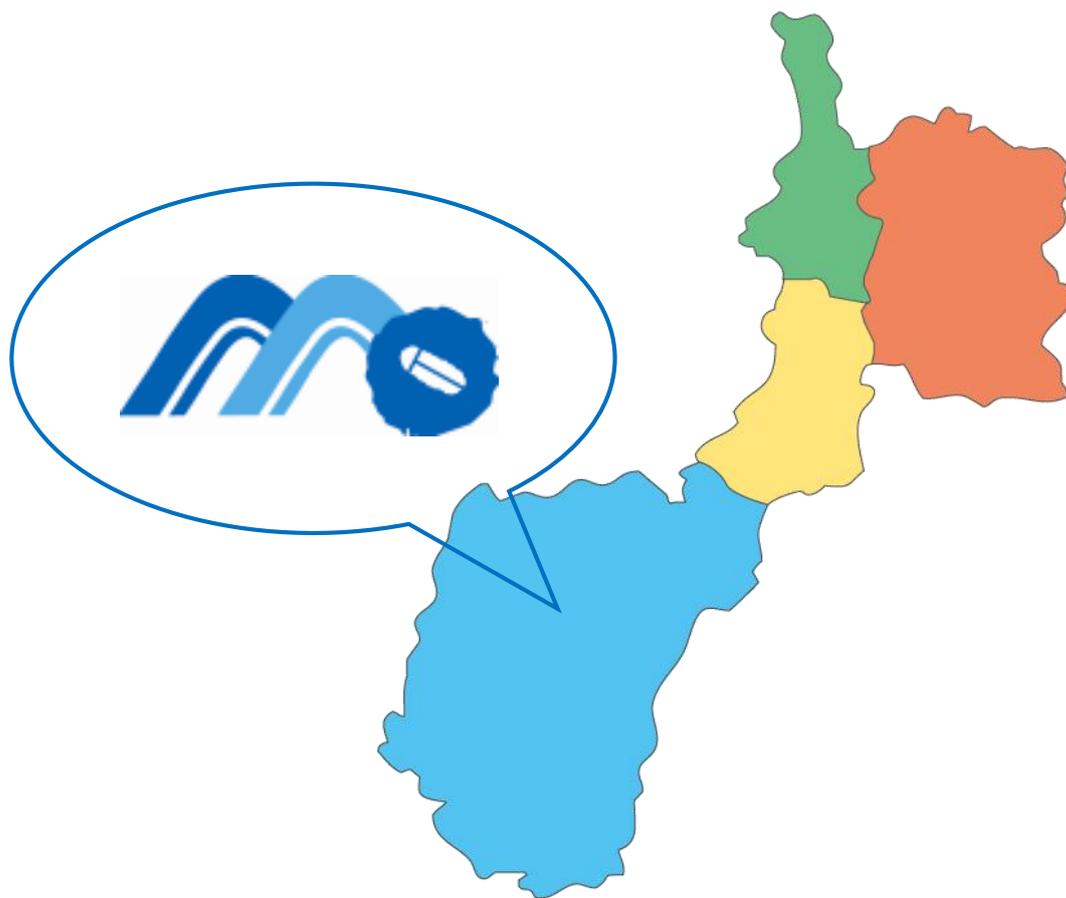


# 南地区コミュニティ まちづくり計画



平成 31 年 3 月 作成  
南地区コミュニティ運営協議会



## 1. 計画の策定にあたって

1) 背景と目的	.....	1
2) 策定の経緯	.....	2

## 2. 南地区の概要

1) 地区の特性	.....	3
2) 地区の形成	.....	4
3) 地区の構成	.....	5
4) 人口	.....	6
5) 地域の活動	.....	8

## 3. 現状と課題

1) 課題・テーマ	.....	9
2) テーマ別現状と課題	.....	10

## 4. 将来像と基本方針

1) 南地区の将来像	.....	14
2) 基本方針と具体的取り組み	.....	14

## 5. 計画

1) 計画の分類と進め方	.....	18
2) 計画の実行体制	.....	19

# 1. 計画の策定にあたって

## 1) 背景と目的

南地区は、大野城市の丘陵新興住宅地でコミュニティセンターを中心にして活発な地域活動に取り組み、まとまりのある地域のまちづくりを展開して来ました。

この計画は、コミュニティ運営協議会が改編された2018年（平成30年）を初年度に、10年後の2028年度を目標年度として、これまで一体的な日常生活圏域となってきた南地区にある身近な地域の問題を地域の目標とともに共有して、その課題解決のための活動とまちづくりの取り組みを示すものです。今回策定した「南地区コミュニティまちづくり計画」は、10年後の南地区コミュニティの目標実現のための骨格となる部分であり、向こう5年間を目途としたものです。

特に南地区の将来目標をいち早く掲げて取り組んだ「新高齢者支援事業」は大野城市において、今後の高齢化社会に向けた地区コミュニティにとって先進的なモデル事業となるもので、本計画では重点的な取り組みとして尊重して行くこととします。

### 本計画の目的は・・・

- 地域住民で構成されるコミュニティ運営協議会、7区の役員等の年度ごとの改選により、地域活動の継続に支障をきたす場合もあるため、一定期間の活動計画を定め、運営体制に関係なく地域への活動が一定の方向にブレなく進んでいくために計画策定を行う。
- 計画策定という目標に、地域住民が関わることで、地域への関心やまちづくりへの理解が深まり、当事者意識を持った「地域活動の新たな担い手」を発掘していくことを目指します。
- 少子高齢化社会に入り、みんなで解決すべき地域課題が増加しています。各区のみによる取組が困難になり、「地域コミュニティ」というより大きな単位での活動が有効となるよう、効果的な活動を選択し、実施します。

## ■策定方針

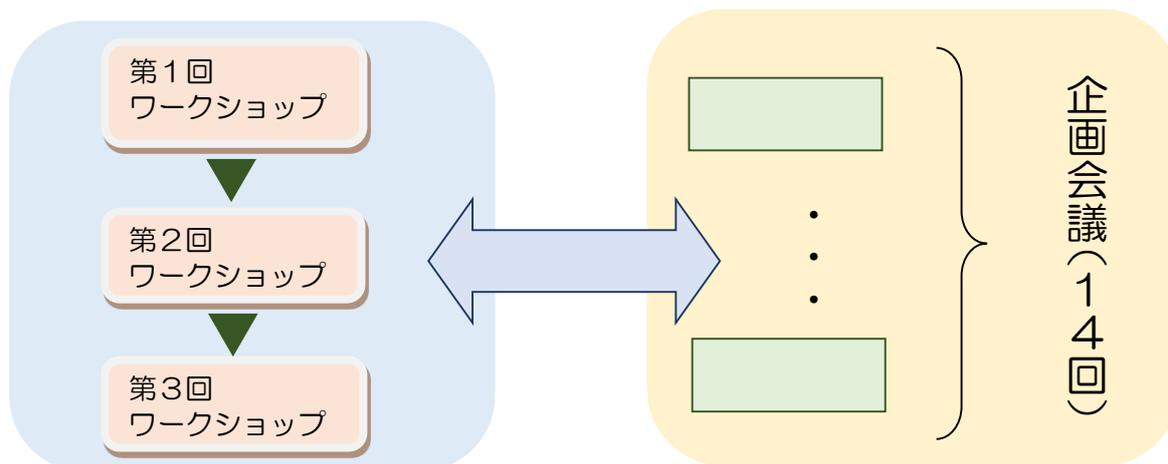
- これまで地域で育まれてきたまちづくりの系譜や文化を大切にしたいプランとする。
- これまで実施してきた「新高齢者支援事業」と合致したプランとする。
- これから直面する地域課題の解決、地域活性化につながるプランとする。
- これまで7区が進めてきた活動が有する資源を活用したプランとする。
- 運営協議会が事務局となり、地域振興部を窓口として住民の参加、参画するプランとする。

## ■ 計画の構成と期間

- 平成30年度まちづくり計画策定。平成31年度からの5か年とする。
- 平成30年度は、これまで実績を踏んできた地域活動、事業をベースにした骨格事業を軸にした基本プランを策定し、骨格事業の推進を図る。
- 平成31年度は、まちづくり計画の実施と地域活動計画（目標、取組、役割分担）を策定する。
- 平成32年度は、地域活動計画に相応した事業、活動を実施する。

## 2) 策定の経緯

まちづくり計画策定にあたっては、平成30年度に行われた総合計画の南地区ワークショップの取り組みを参考にし、さらに住民の日常のニーズを聞く為、計3回のワークショップを実施し、地域活動の主体である地区役員から将来の地域の担い手となる中学生までの幅広い世代の意見を集約し、地域住民の満足度と納得度が得られる計画となるよう努めました。



これらのワークショップの運営及び資料作りを地域振興部メンバーが企画会議を担当し、企画会議で作成した『南コミュニティの系譜』や『行政区別の活動表』によりワークショップでの意見交換や計画作りを活発に行うことができました。

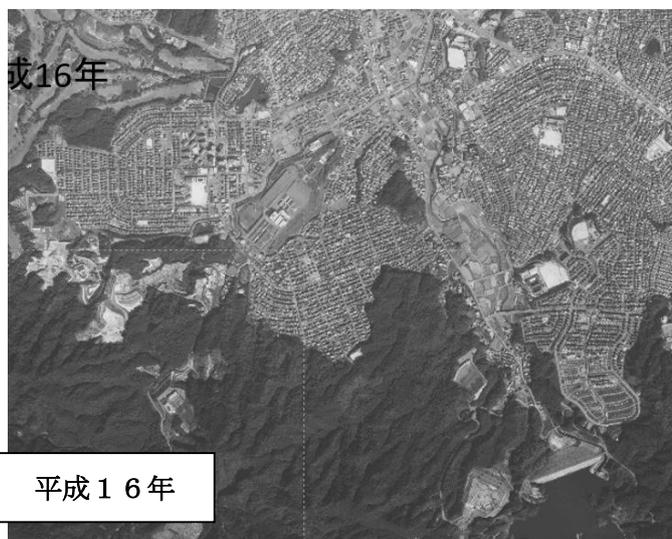
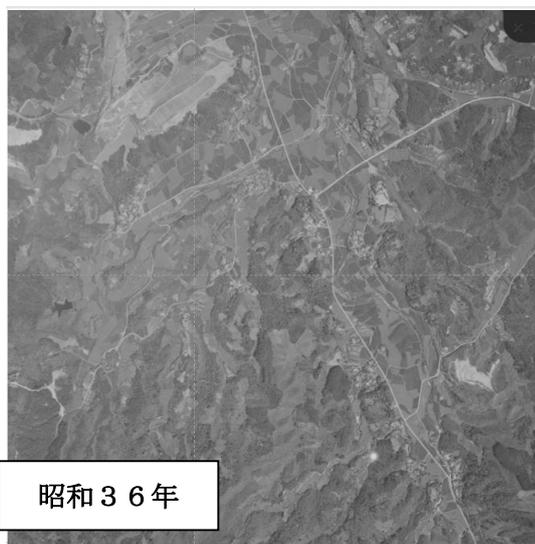
## 2. 南地区の概要

### 1) 地区の特性

南地区は、福岡県道筑紫野線南側の緩やかな丘陵地帯において、主に低層戸建て中心の住宅が広がる地域です。

旧石器時代から縄文・弥生・古墳時代の遺跡が各所に散布し、平野神社から広がる牛頸山麓には、6世紀ごろの100余基の古墳が数箇所に群集し、その山麓から中腹にかけては大陸からの技術集団によってもたらされた須恵器窯跡群が散在し、古代には「牛頸千軒七ヶ寺七浦」という諺が伝承されているように大村落であったと言われています。

悠久の歴史を秘め、人情豊かな山紫水明の山里は数多くの歴史と伝承を残しながら時代を経て、昭和40年代後半「住宅都市・大野城」を形づくる大規模な住宅開発や土地区画整理事業により、人口が急増しました。地区南部には、牛頸山や牛頸川などの豊かな自然に囲まれ、蛸が観察できる田園風景も残っています。また、昭和46年に南地区が国のモデルコミュニティ地区に指定されたことを契機として、各地区において、コミュニティによるまちづくりが進められてきました。



## 2) 地区の形成

南地区は、昭和40年代から郊外住宅地として開発が始まり、福岡市のベッドタウンとして市街地形成が進んできました。適度な通勤距離にあり、緑豊かで快適な住環境に恵まれていることから、西鉄下大利駅や春日原駅から路線バスの運行を前提としての南ヶ丘・平野台・つつじヶ丘・月の浦・若草などの丘陵を拓いた大型団地が造成され、多くの新住民を迎えて、人口は急激に増加していきました。

新たな住宅地整備に伴い、南ヶ丘商店街・平野台商店街という新たな生活拠点が形成され、利便性を高めていきました。また、こうした人口増加に伴い、小学校が再編・新設され、牛頸小学校が大野南小学校となり、平野小学校、月の浦小学校が開校し、教育施設も整えられていきました。

住宅地開発とともに建設された南コミュニティセンターは、新住民の文化、スポーツを通じた交流の場として親しまれ、現在も南地区の重要なまちづくり活動の拠点となっています。

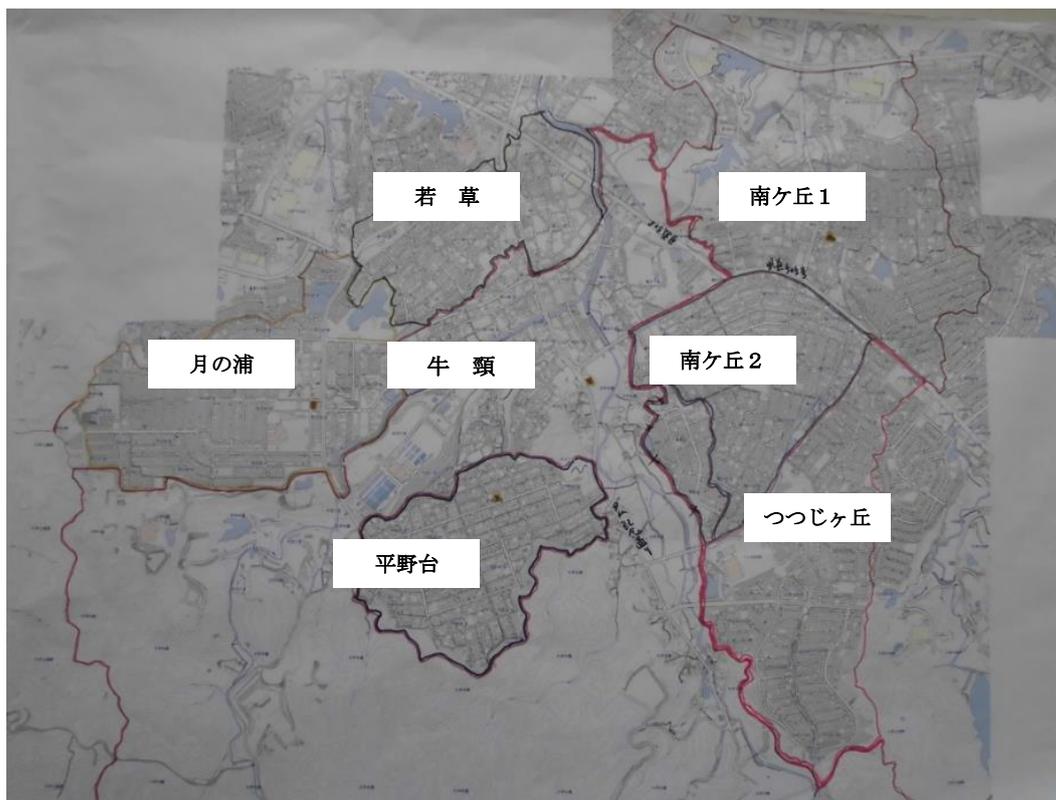
## 南コミュニティの系譜

年	出来事	年	出来事
平成29年	ゆめあかり広場 超大倉	平成30年	月の浦公民館開設
平成28年		平成29年	若草公民館開設
平成25年	南コミュニティ1回目開催	平成24年	若草分区分
平成21年	ふれあい号運行開始		
平成20年	月の浦西公園水たまり飼育場完成		
平成20年	エコープ前の道路が広がる		
平成19年	牛頸水たまり飼育場完成		
平成19年	福岡西方沖地震発生		
平成15年	平野神社改築	平成15年	つつじヶ丘 公民館開設
平成11年	南コミュニティセンター完成		
平成10年	西鉄入トア開店	平成9年	つつじヶ丘分区分
平成8年	<b>月の浦小学校 開校</b>	平成7年	月の浦分区分 公民館開設
平成5年	いこいの森オーブン 南山手団地 牛頸夕人竣工 交通移動	平成3年	平野台分区分 公民館開設
昭和62年	大野城市勤労者体育センター (現南コミュニティ体育館)	昭和61年	南ヶ丘2区分 公民館改築
昭和59年	平田川校並木植樹	昭和58年	南ヶ丘1区分 公民館改築
昭和57年	牛頸地区 区画整理	昭和55年	若草新町名決定 牛頸公民館
昭和56年	<b>平野中学校 開校</b>	昭和53年	大雪降る
昭和53年	大雪降る	昭和51年	大野南小学校開校 大野南小学校開校
昭和51年	<b>大野南小学校開校</b>	昭和49年	南ヶ丘郵便局 平野台町名変更
昭和49年	南ヶ丘郵便局 平野台町名変更	昭和48年	つつじヶ丘新町名決定 南ヶ丘2区分公民館
昭和48年	集中豪雨・水害発生 南ヶ丘保育園開園	昭和48年	平野台新町名決定 南ヶ丘1区分公民館
昭和47年	南地区コミュニティセンター完成	昭和46年	モテルコミュニティ (牛頸小学校閉鎖)
昭和46年	モテルコミュニティ	昭和45年	南ヶ丘2区分 新町名決定
昭和44年	西鉄下大利・南ヶ丘 マイクログラス	昭和44年	南ヶ丘1区分 新町名決定
昭和43年	南ヶ丘地区の造成		
昭和42年	南コミュニティモテル地区指定		
昭和40年	牛頸浄水場完成		
昭和36年	上牛頸、下牛頸の合併		
明治7年	<b>牛頸小学校開校</b>		

### 3) 地区の構成

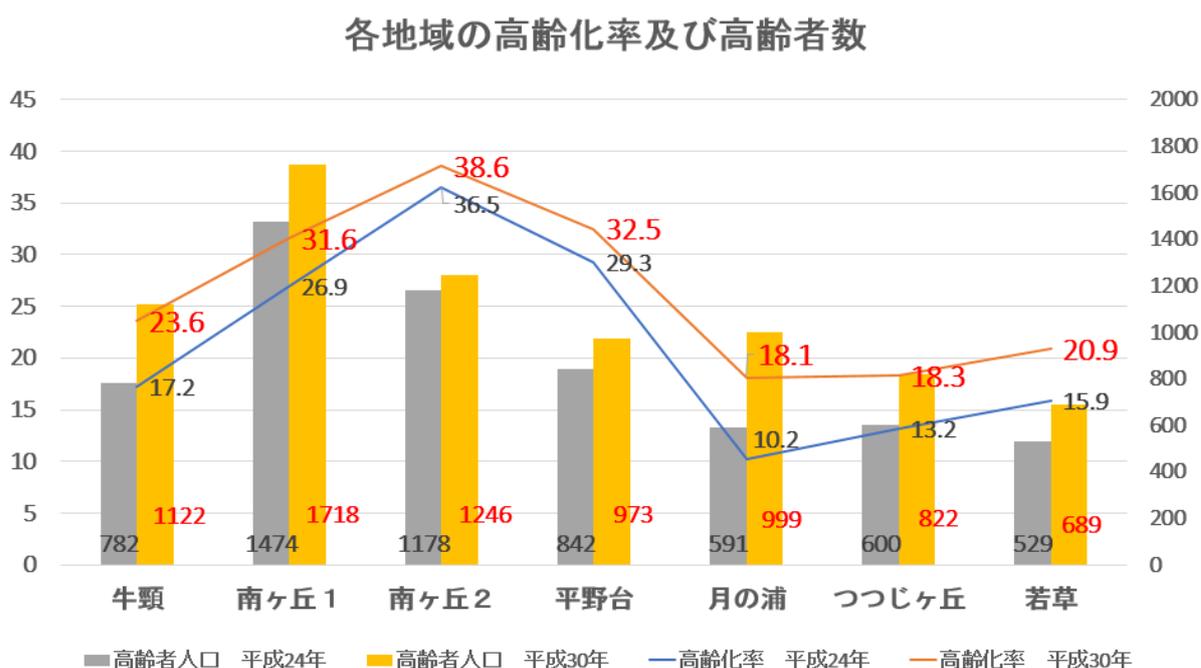
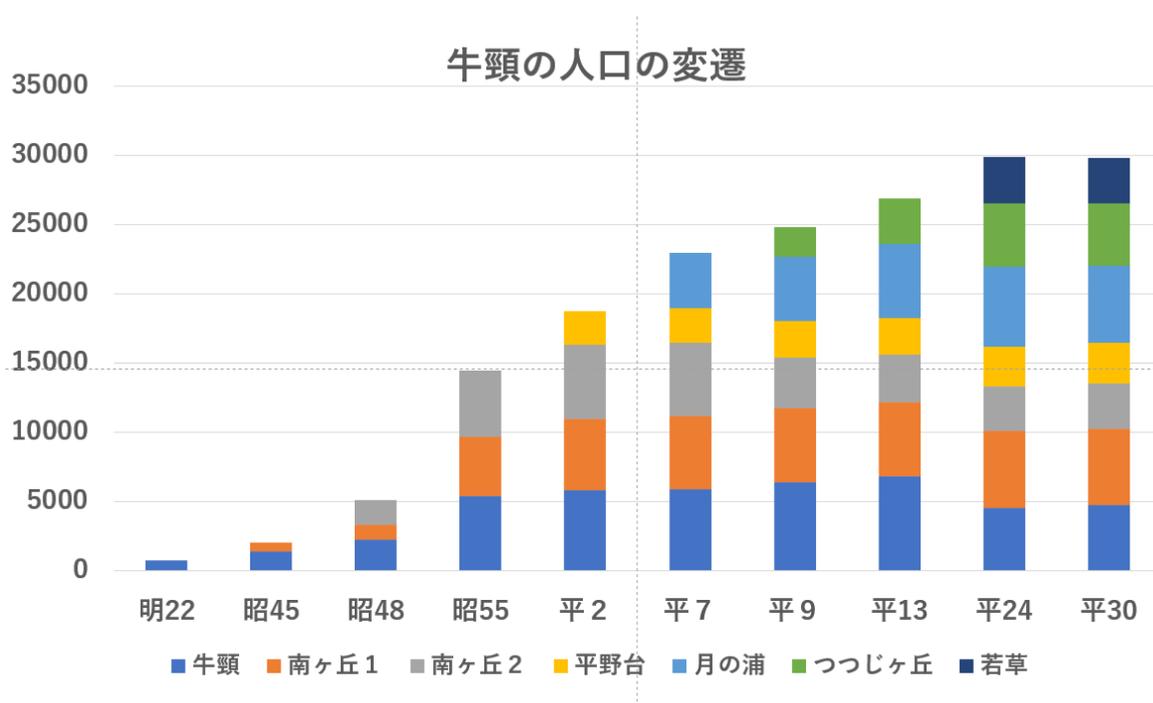
南地区の基盤となる「牛頸」は、かつて上牛頸、下牛頸が統一され「牛頸区」となり、昭和 40 年代以降、人口増加に伴い分区が繰り返され、現在の7区になる。

その間、小学校は牛頸小学校が大野南小学校に変更された後、平野小学校、月の浦小学校が新たに開校された。

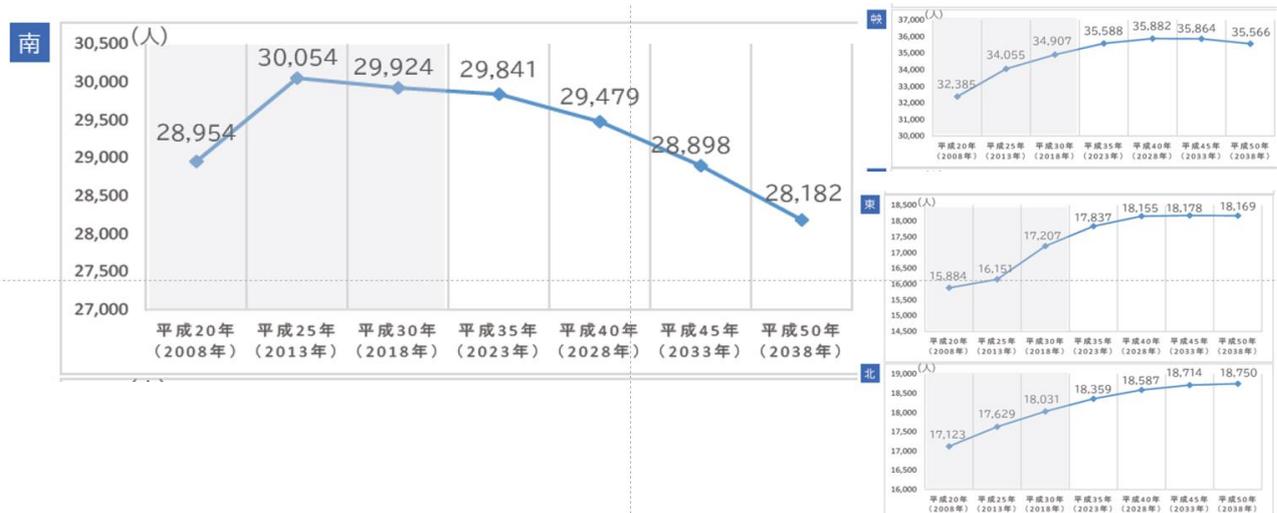


#### 4) 人口

現在、7行政区からなる南地区の人口は29,904人であり、高齢化率は25.1%と他の3地区コミュニティと比べて最も高くなっている。人口増加とともに分区された7行政区別の高齢化率は、おおむね開発時期に応じたものとなっているが、近年その地理的特徴も含め、高齢化率の違いが見られている。



人口の将来推計を見ると、南地区は市内4地区コミュニティの中で唯一人口減が進むと予想されており、今後の少子高齢化に伴い起こると想像される様々な課題に対応した取り組みが求められている。



### 南地区の将来人口

(上：南地区 下：市)

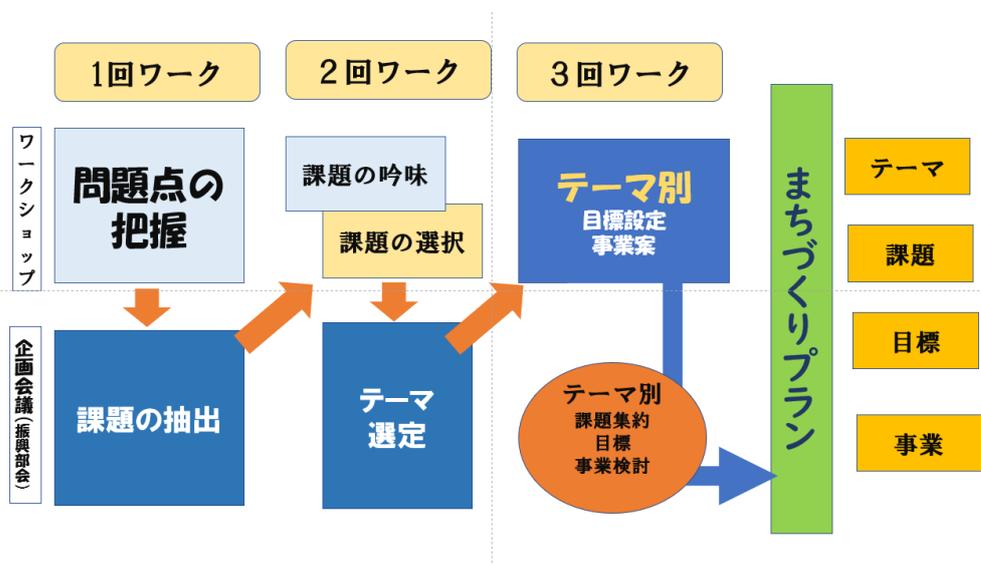
	人口	年少人口 (14歳以下)	生産年齢人口 (15~64歳)	高齢者人口 (65歳以上)
H30	29,904人	4,668人 (15.6%)	17,743人 (59.3%)	7,513人 (25.1%)
	100,069人	15,795人 (15.8%)	63,294人 (63.2%)	20,980人 (21.0%)
H33	29,923人	4,555人 (15.3%)	17,533人 (58.6%)	7,786人 (26.1%)
	101,003人	15,784人 (15.6%)	63,229人 (62.6%)	21,990人 (21.8%)
H36	29,769人	4,402人 (14.6%)	17,343人 (58.4%)	8,023人 (27.0%)
	101,721人	15,647人 (15.4%)	63,165人 (62.1%)	22,909人 (22.5%)
H40	29,479人	4,090人 (13.9%)	17,142人 (58.1%)	8,247人 (28.0%)
	102,103人	15,126人 (14.8%)	63,083人 (61.8%)	23,894人 (23.4%)



# 3. 現状と課題

## 1) 課題・テーマ

計画策定に際しては、地区の問題点、課題の把握及び課題解決のための取り組み、活動を住民参加（ワークショップ及び企画会議）の議論、意見交換により検討を中心に行いました。計画の方向性及び具体的な取り組み（事業、活動）をまとめるためのテーマについては住民参加で出された各世代の意見、声を集約して7つに整理しています。



## テーマの選択



## 2) テーマ別現状と課題

# 高齢者

昭和40年代からの大型団地開発により、急速に住宅地化とともに移り住んだ新住民が一気に高齢者となり、南地区全体の高齢化が顕著で、大野城市4地区コミュニティの中で一番の高齢化率となっている。

高齢者の一人住まい、高齢者のみの世帯の増加とともに、地域との繋がりの薄い引きこもり、認知症患者が増え、孤独死や徘徊が懸念されている。

### 課題

- 高齢者のみの世帯が、地域とのつながりの機会が薄れ、閉じこもりの傾向にある。
- 外出機会が減り、引きこもり状態となり、孤独死、認知症の危険度も高まり、社会の不安が高まる。
- 高齢者が元気で何かやりたいと思っても、地域活動等に参加するきっかけがない。

# 移動交通

高齢化の進展とともに、日常生活を支える移動のための公共交通を求める声が高まってきている。特にバス交通は、より自宅に近いバス停、路線ルート等、地域を網の目のようにめぐり、頻繁に運行されるみんなの足となるきめ細かさが求められている。

既存の交通手段を有効に活用し、高齢者等の移動手段を持たない人々が利用できる交通の新たな発想、仕組みを取り入れた交通手段の検討が求められている。

### 課題

- 高齢者の外出をしやすくする（動機）地域の足となるバス交通。
- 高齢者に限らず、地域住民の誰もが利用できる移動手段。
- 現在の移動交通の手段がより利用されるように改善する必要がある。
- 地域交通について地域で自由に話し合う場がない。

# 防犯

区ごとに行われている防犯パトロールにより、軽犯罪が減少してきているものの、各区のパトロールにおいて、担い手の不足に悩んでいる。また、高齢者をターゲットにした特殊詐欺が増加しており、注意喚起が求められている。

## 課題

- 大きな犯罪の抑止力となっているパトロールを、より効果的にするための活動時間帯の見直し。
- 通勤、通学、買い物で利用する道路は、防犯のための照明の配置をする。
- 犯罪の情報がうまく伝わらず、適切な防犯のための準備、活動がとれない。
- 特殊詐欺などに合わないための研修。

# 居場所

地域で遊んでいる子どもを見る機会は減ってきている。特に学年相互の遊び、交流や高齢者、大人と子どもとの関係は希薄になってきている。塾や習い事で子どもが忙しく生活しており、子ども同士が集まり、グループで遊ぶ機会が減ってきており、コミュニケーション能力や人間関係の構築に問題のある子どもも増えてきている。共働き世帯の増加は、夜まで家で一人という子どもの状況が多く、放課後みんなで一緒に入れる場所が求められている。

## 課題

- 小学生には夕方5時の「帰宅ルール」があるため、誰もいない一人の家に帰らなければならない。
- 子育て世代が孤立気味で、地域や高齢者との対話の場がない。
- 小学生の夕方5時以降は、友人の誘いをできない為、ひとりぼっち同士の子供が集まりがちになる。
- 公園で遊んでも近隣住民から苦情があり、子どもが安心して遊ぶ場所がない。

# 防災

南地区では、大雨による土砂災害及び地震災害が想定されている。特に、近年多発するゲリラ豪雨に伴い、頻繁に発令される避難情報に住民は戸惑いを感じている。また、警固断層下にある大野城市の震災に対する防災対策への関心も高まっている。

災害時には、公民館を拠点に避難を行うこととなっており、地域での助け合う避難行動のあり方、安否確認、救援救済を共助の精神で行うことが求められている。

## 課題

- 防災訓練が年中行事として行われているが、内容が固定化しており災害時に有効で実践的なものにする必要がある。
- 公民館への避難の後、小学校、コミュニティセンターへ向かう避難行動のあり方が決まっていない。
- 防災活動が地域役員等の活動に偏り、担い手が不足している。
- 一人ひとりの防災意識が低く、防災活動への参加者が少ない。

# 地域活動

南地区は、大野城市発展の基礎を作った郊外住宅開発の先駆けとなった地域で、それぞれの開発団地が新たなコミュニティを形成してきた。

牛頸区から、それぞれ分区を重ね、最終的には7行政区が独自の地域活動をもとに、特色あるまちづくりを行ってきた。今後、人口減少、高齢化が進み、地域活動の人材の固定化、担い手不足による地域活動の減速、コミュニティの希薄化が懸念されている。

## 課題

- 昔から継承してきた活動が、子ども向けの行事が少ないなど見直しされることなく継続されてマンネリ化している。
- 活動の担い手、提供側が地域役員等で固定化しており、やる側の負担感が大きく、役員になることが敬遠されている。
- 地域活動の内容伝達、参加要請を行う情報発信が画一的で効果が薄く、参加者不足に悩んでいる。

# こども

地域との接点がない子育ての親が多く、ひとりで悩みを抱え込んでいる。

子育てに関する悩みや、問題の解決のための相談支援を受けるために必要な情報が不足する。

## 課題

- 子育て中の親を呼び込む地域活動の取り組み。
- ママ友など子育て中の親のグループ活動との連携。

## 4. 将来像と基本方針

### 1) 南地区の将来像

南地区は、南コミュニティセンターを中心として住宅地が広がり、大野城の貴重な自然として市民に親しまれている牛頸山麓を背景にした自然に恵まれた地域です。

この自然環境と地域が有する歴史、文化を大切にして、これまで培ってきた区の特徴と地区コミュニティの一体感を次世代に引き継いでいくことが求められています。

住民相互の助け合いや支え合いの関係を大切に、住民一人ひとりがまちづくりに関心を持ち、安全安心に楽しく暮らせる南地区のまちづくりの一員として活動していくまちづくりを目指します。

地区の概要、現状・課題に基づき、10年後を目標とする南地区の将来像を次のように位置づけます。

- ◇ 地域全体で高齢者を支えるまち
- ◇ 安心して子ども・青少年の育成ができるまち
- ◇ 世代を超え、地域活動が活発なまち
- ◇ 自然環境を守る美しいまち
- ◇ 住み慣れた地域で自分らしく住み続けられるまち

### 2) 基本方針と具体的取り組み

#### 高齢者

##### ～方針～

- ★高齢者が、生きがいを持って暮らせるように社会との関係を持てる環境やきっかけをつくる
- ★高齢者の持つ経験や関心に対応した地域活動を紹介（マッチング）していく
- ★近所での日頃からの声掛け、見守り等、良好な人間関係を保つ取り組みを行う

##### 取り組み・活動

- 地域包括ケアシステム・協議体の運営
  - 近所、地域の見守りの充実（民生児童委員に限らず）
  - 近所の居場所づくり（ふれあい市場・ふれあい食堂）
  - 小・中学校での出前講座（昔あそび、社会人講座）
  - シニアクラブ活動の活性化
  - もやい帳の活用・・・サークルへの参加

## 移動交通

### ～方針～

- ★ふれあい号の取り組みを中心に、これからの利用に corres えるための地域ニーズ、個人ニーズを把握して事業の再編を検討する
- ★ふれあい号の利用実態の把握を行い、使われるための現状の運営システムの見直しのポイントを検討する
- ★きめ細かい移動ニーズに対応できる新たなシステムを研究する

### 取り組み・活動

#### ■地域交通検討委員会の設置

- ・ふれあい号の活用、移動ニーズのアンケート
  - ・高齢者だけでなく移動交通要支援者の利用ができる仕組み検討
  - ・会員制、企業等民間の協賛等新たな運営システムの研究
- ふれあい号の利用促進のための広報、PR 推進
- ふれあい号の運行
- ふれあい号の地域活用及びイベント等と連携した利用促進のための社会実験

## 防犯

### ～方針～

- ★地域の重要な通りには夜間でも安心して歩ける明るいまちを目指す
- ★無理なく誰もが参加できる負担のない防犯活動を継続する
- ★防犯情報がリアルタイムで共有され、地域毎の迅速な対応を目指す

### 取り組み・活動

#### ■犯罪情報のリアルタイムの全地区共有システム（公民館ネットワーク）

- 住宅のあかりで安心安全（家の門等、マンションの街灯）
- 効果的な防犯パトロールの見直し（時間帯の検討）
- 防犯活動者の地区顕彰制度
- 小・中学校におけるハザードマップの活用

## 居場所

### ～方針～

- ★子育て世代と地域との交流の場を増やす
- ★公園等人の集まる行事、レクリエーションを増やす
- ★子供が一人にならず遊ぶ、話す場を生み出す

### 取り組み・活動

- 公民館の夕方居場所づくり（アフター5コミュニティ）
- 公園を利用した遊びの場のづくり（遊びサポーター：ボランティア）
- 子育て世代と地域の交流の場づくり（南コミまつり・れくスポ祭との連携）

## 防災

### ～方針～

- ★区からコミュニティまで連携した防災訓練を行う
- ★気がるに楽しく参加できる活動とする
- ★防災士の活躍の場をつくる

### 取り組み・活動

- 地域防災士の連絡協議会の設立
- 区別の防災計画（避難訓練、避難計画）の支援
- 地域防災訓練の実施（区訓練、コミュニティ包括訓練）
- 防災学習、意識啓発（ハザードマップ等の作成）

## 地域活動

### ～方針～

- ★一部の地域役員等への負担がない、みんなが担い手となる活動を行う
- ★子どもが自ら参加、参画する子ども目線にあった活動を実施する
- ★住民が別け隔てなく楽しめる体験型の交流活動を企画する

### 取り組み・活動

- 全方向の広報手段を使った情報発信  
(SNS、ライン、フェイスブック・・・)
- 子ども役員による地域活動の推進
- 全世代、交流体験型事業・・・7区合同事業(子連れ親、高齢者と子ども)
- 学校との連携、協働事業  
(コミュニティスクール事業・小中学校での行事アピール)

## こども

### ～方針～

- ★現在の活動に親子参加の機会を増やす取り組みを増やす
- ★子育ての親が集まるサークル等の活動を広げる
- ★気軽に日常の子育ての悩み、相談ができる窓口をつくる

### 取り組み・活動

- 地区全体の取り組みとなる南コミ事業に親子参加のプログラムを必修化
- 子育ての親のための相談カフェの開催
- 地域活動団体による子供の虐待、人権に関する情報提供

## 5. 計画

### 1) 計画の分類と進め方

まちづくり計画に示された活動・事業は地区全体で包括的に取り組む「コミュニティプラン」と、現在の区の活動の継続、見直し及び新たな活動に取り組む「基本プラン」とする。

#### ■コミュニティプラン

横断的に各部会を含めた実行委員会を設け、南地区全体で新たに実行していく取り組みを進める。

##### ➤ 生活支援コーディネーターによる協議体の運営

南地区は大野城市の地域包括ケアシステムづくりの2層協議体のモデル地区となっており、地域振興部を窓口にし、地区生活支援コーディネーターと社会福祉協議会と連携して南地区協議体を設立し、高齢者の生活支援サービスの取り組みを進める。

##### ➤ 地域交通検討委員会の設置

南地区におけるバス、公共交通の体制を見直すための調査研究を関係機関と運営協議会が連携して進める委員会を設置する。

##### ➤ 犯罪情報のリアルタイム全地区共有システム（公民館ネットワーク）

現在、各公民館に連絡、集約されている犯罪発生情報を公民館相互のネットワークを形成して、地区全体に情報共有できる仕組みをつくる。

##### ➤ 公民館の夕方居場所づくり（アフター5コミュニティ）

公民館を5時以降に子どもの居場所スペースを確保して、保護者が安心して預けられる子どもの学びと遊びの場をつくる。

##### ➤ 地域防災士の連絡協議会の設立

大野城市の講座を受けた南地区の防災士からなる連絡協議会を設け、地区の防災活動の現状を洗い直し、区毎の防災活動、避難訓練に取り組む。

##### ➤ 全方向広報手段を使った情報発信（SNS、LINE、FACEBOOK）

SNS、LINE 等の拡散、瞬発性のある情報発信により、各活動への参加・参画を高める。各地区の子育て、子ども育成に関する情報を SNS、LINE 等の若い世代に的確に幅広く伝達し、活動への参加・参画を高める。

##### ➤ 地区全体の取り組みとなる南コミ事業に親子参加のプログラムを必修化

南地区で実施している様々な交流レクリエーションイベント活動のときに、親子で参加できるプログラムメニューを取り込む。

## ○基本プラン

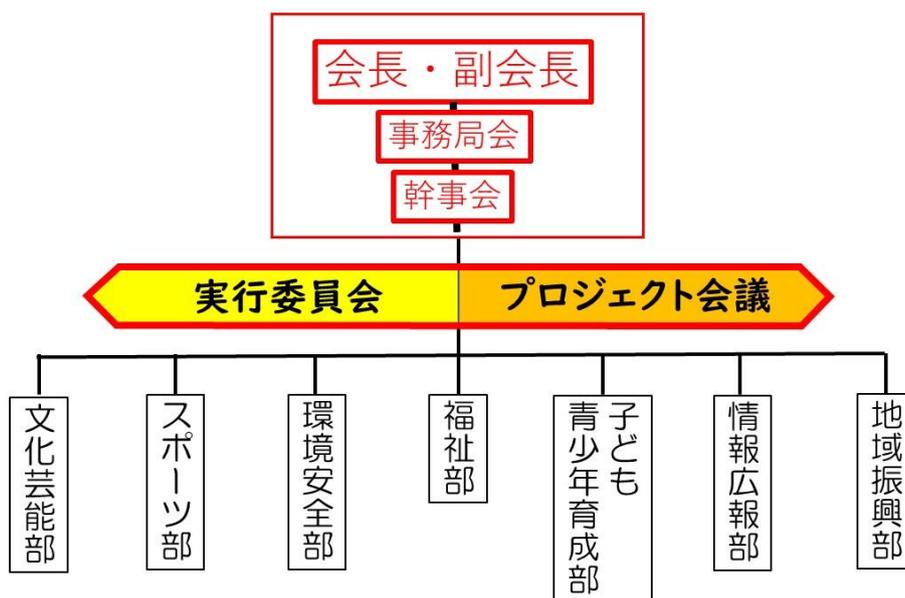
これまで各区で取り組んできた事業や活動の見直し、再編していく活動。事業や南地区全体で基本的な方向を定め、各区がモデル的に先行的な活動を行い、事業を実施しながら、地区全体に広げていくもの。

まちづくり計画のコミュニティ事業及び基本プロジェクトの取り組みはそれぞれの目標年次を掲げて計画的な取り組みを行います。

## 2) 計画の実行体制

コミュニティプラン、基本プランの実施にあたっては、それぞれの事業活動に対して、実行委員会またはプロジェクト会議を立ち上げ、各部会との調整や連携を図りながら、その実現を図ります。

コミュニティプラン実施体制図



計画の実施スケジュール		1年	2年	3年	4年	5年
高 齢 者	<b>■生活支援コーディネーターによる協議体の運営</b> ○近所、地域の見守りの充実（民生児童委員に限らず） ○近所の居場所づくり（ふれあい市場・ふれあい食堂） ○小・中学校での出前講座（昔あそび、社会人講座） ○シニアクラブ活動の活性化 ○もやい帳の活用・・・サークルへの参加	→				
	<b>■地域交通検討委員会の設置</b> ○ふれあい号の利用促進のための広報、PR 推進 ○ふれあい号の運行 ○ふれあい号の地域活用及びイベント等との連携 ○ふれあい号利用促進のための社会実験	→				
	<b>■犯罪情報のリアルタイムの全地区共有システム（公民館ネットワーク）</b> ○住宅のあかりで安心安全（家の門等、マンションの街灯） ○効果的な防犯パトロールの見直し（時間帯の検討） ○防犯活動者の地区顕彰制度 ○小中学校のハザードマップの活用	→				
	<b>■公民館の夕方居場所づくり（アフター5 コミュニティ）</b> ○公園を利用した遊びの場づくり （遊びサポーター：ボランティア） ○子育て世代と地域の交流の場づくり （南コミまつり・れくスポ祭）	→				
	<b>■地域防災士の連絡協議会の設立</b> ○区別の防災計画（避難訓練、避難計画）の支援 ○地域防災訓練の実施（区訓練、コミュニティー包括訓練） ○防災学習、意識啓発（ハザードマップ等の作成）	→				
地 域 活 動	<b>■全方向広報手段を使った情報発信（SNS、LINE、FACEBOOK）</b> ○子供役員による地域活動の推進 ○全世代、交流体験型事業 ・・・・7区合同事業（子連れ親、高齢者と子ども） ○学校との連携、協働事業 （コミュニティスクール事業・小中学校での行事アピール）	→				
	<b>■地区全体の取組みとなる南コミ事業に親子参加のプログラムを必修化</b> ○子育ての親のための相談カフェの開催 ○地域活動団体による子供の虐待、人権に関する情報提供	→				
1 し ん せ い		→				